あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手

2012 7 月号

あの手この手のマークの間のSは solution（解決）のSです。

大和市民活動センター［拠点やまと］ 第60号 2012年7月3日発行

今年も節電の夏、学校や住宅などにグリーンカーテンとしてゴーヤが植えられ黄色の花が見られます。

●喪われた風景

大和の古民家シリーズ・第1回 たそがれ 絵・大久保信昭

本号から 3 回にわたって、大和市にあった今はもうない古い民家の姿を紹介します。描き留めてくださったのは今年 2 月に亡くなった大久保信昭さん。この「たそがれ」という作品は昭和 48 年（1973 年）の作。ほんの 40 年ほど前に、この民家は現存し、ここで生活が営まれていました。喪ったものや事、代わりに得たものや事は何か。絵はそれを問うているようにも見えます。（小杉記）

大久保信昭（おおくぼのぶあき）さんプロフィール

元大和美術協会会長。大和市深見台に長年在住。昭和 5 年（1930 年）横須賀市長井町生まれ。小学校教諭、教頭、校長を歴任。平成 2 年（1990 年）川崎市立日吉小学校校長を最後に退職。本年平成 24 年（2012 年）2 月に急逝。

夏休み＝中・高校生ボランティア体験 このゆびとまれっ！ に参加しよう

2012 年も市民活動センターは次のボランティアコースが担当です

①子育て支援 ②環境保全 ③障害者・児支援のサポーター募集

＊詳細は同封したチラシを見てください。

まずは、オリエンテーションに出席だよ
（事前説明会）
7月21日（土）14：00～16：00 場所「センター」

＜送付の際、同封されているご案内＞

・第 54 回連続共育セミナー「とっさの判断力を磨く 」7/24（火）開催のご案内

・“2012 年 中高生夏休みボランティア体験募集**このゆびとまれっ！**”のお知らせ

＊「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

平成２４年度の協働事業等提案制度・市民活動推進補助金制度は予定通り進行中

・・・「あの手この手」にてのご案内は連続４回目です・・・

市民活動推進補助金の申請6団体はすべて選考されました

公開選考会は 6/3(日) 勤労福祉会館にて開催しました。

選定された活動報告は今年度末、活動終了後に行われます。

めばえ：活動を始めたばかりの団体に対する補助金（上限５万円）

・チームしらかし華の会

被災地女川にアジサイの鉢を送り、失われた桜も復活させようと取組み

その姿を大和駅東側プロムナードの花壇に写し、情報の共有を図ろうとする。

応援メッセージ 復興計画は未だ定まらないが、思いやりを持って被災地を花一杯にしてください

はぐくみ：活動をしている団体に、より活動を発展させるための補助金（上限 20 万円）

・社会福祉士の会「やまと」

認知症サポーター講座を受けた人(オレンジリング携帯)がリーフレットやチラシを活用し行政に行けない人をサポートする活動をする。

リーフレット印刷は身障者作業所に依頼等配慮されている。地域ぐるみで体制づくりをしてください

・NPO 法人ヒューマン ICT 推進委員会

パソコンを学ぶ環境に恵まれない子どもを対象に「楽しいパソコン教室」を開き、情報化社会を生きるサポート活動をしています。

講師やPC、会場等環境を充足して継続して教室が開かれるように、しっかり成果を求めてください

・NPO 法人 マイセラ・ジャパン(旧：くじらのしっぽ)

ムイシキと関わる体験(マイセラワーク)を学ぶ講演会やワークショップを開き、虐待を未然に防ぎ子育てが楽しくなるように活動しています。

知識を伝える講演会、実感してもらうワークショップを活用して成果を期してください

・サポートチーム G

被災地東松島市との支援活動を通じて得た経験から、災害対応できる人材育成を現場視察セミナー等を通じて図っていきます。

特に、若い方を対象に計画されているが、9～10 月の実施予定が成功することを期待します

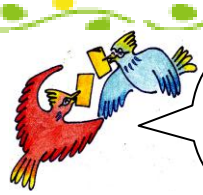
・大和市芸術文化振興会

演奏家が楽器体験や生演奏を希望する団体等に出向き、披露する

その際ボランティアの力を借り、ふれあいの創出も図る活動をします。

このような芸術文化活動はめずらしく、ボランティア等実施環境を整備することにも努められ、活動が継続することを願います

また 参加したい！



みんながつかった。今年も楽しかったネ

団体交流会のキャラクター
ピーチクパーチク

7/1(日)勤労福祉会館3Fにて開催。20 団体、42 人が参加

第４回登録団体交流会 2012　～ひろげよう 市民活動の“わ”～

アイスブレーク「あなたの出身地は？」参加者で日本列島完成

あれ？ひとり外にいる(外国生れでした)

２分間で自分の団体ＰＲ

慣れてきて映像をうまく使ったりしていた

団体でのテーマを「クロスロード」で体験

テーマに対し、いろんな考えを聞けて楽しめた

ジャンケンの声が会場一杯。勝ち○負け×を私製名刺に付けて交換。5枚×名刺を獲得したら順に着席。

席番号は「賞」につながるんだ

グループ内で隣のひとを他者紹介

初対面の人を紹介するって、むずかしかった

記念写真 みんなでパチリ！

ピーチクパーチク賞＝会議室等無料利用券。ゲット！

＊「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

意見交換会で協働を知ろう

7 月 8 日（日）13：00～勤労福祉会館3F

協働事業等提案発表会が 6/10(日)勤労福祉会館で開催され、協働事業提案者は熱心に発表しました。

次の意見交換会では協働事業者/市担当課が提案内容を調整し、その結果を発表します。意見交換会は公開です。

＜発表された事業名＞　　＜協働事業者/市担当課＞

＊市民提案型（提案 10 件、新規は 1 件、他は平成 21 年度の継続事業(一部内容等変更)）

1(新規).通学、通所、外出支援の地域ネットワーク形成・・・・・・・・・・・・・・・ふくしのあしフットワーク／障がい福祉課
教育委員会指導室、保育家庭課

2.移動制約者の外出介助サービス事業・・・・・・・・NPO法人ワーカーズ・コレクティブケアびーくる／障がい福祉課

3.障がい者・高齢者のための「外出介助サービス」事業・・・・・・・・・・・・・・NPO法人大和市腎友会／障がい福祉課

4.大和市移動制約者の外出介助サービス事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・NPO法人たんぽぽ／障がい福祉課

5.はぐくねっと・・NPO法人地域家族しんちゃんハウス／こども総務課

6.「冒険遊び場」ツリーガーデン管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・緑野青空こども広場ツリーガーデン管理運営委員会
（平成 21 年度は行政提案応募型の事業）　　／こども・青少年課

7.ドッグラン管理運営事業・・結の会／みどり公園課

8.地域で支え合う「のりあい」を走らせよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域と市との協働「のりあい」／街づくり総務課

9.生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」・・・・・・・NPO法人かながわ難民定住援助協会
／国際・男女共同参画課

10.地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業・・・・・・渋谷きんりん未来の会／生涯学習センター

＊行政提案応募型（平成 21 年度の継続事業(一部内容等変更)）

1.みんなでつくろう安心のまち事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大和女性防犯会／生活あんしん課

2.みんなでつくろう安心のまち事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・NPO法人日本ガーディアン・エンジェルス／生活あんしん課

6/26(火)「センター」にて第 53 回連続共育セミナーを開催しました。
知ってること、知らないことを再確認しました。

もしもの時　本当に必要なものは？

～災害時に役立つ　知恵と物～

話し手：小宮山利恵子さん（「食のアトリエ」）

災害時避難後の体力維持のために日常の食材を使いながら備蓄するアイデアや、携帯品についても非常時に備え普段に持ち歩ける小サイズにする等が紹介され、出席者との情報交換も盛んだった。即席に蒸し豆、切干大根、スキムミルク等を使って特性カルシュームサラダが振舞われたり、大和市仕様のレトルトおかゆを食べる等非常時を体験し、緑茶やガムの効能も注目された。

次回の第 54 回連続共育セミナーは、

テーマ：とっさの判断力を磨く
～あなたならどうする？　とっさの時～

と　き：7 月 24 日(火)　16：00～18：00

ところ：大和市民活動センター会議室

進行役：関根孝子(拠点やまと会長)

内　容：7/1（日）登録団体交流会で知った「クロスロード」を「センター」版で体験します。

「センター」の**ある日ある時**

6 月 28 日(木)曇り

被災地、相馬市松川浦の今年 6/1（金）現状の写真を「センター」に掲示していました。スタッフが友人から携帯メールでいただいたものです。「ネパールに学校を！」の活動をしている団体「NPO 法人いきいきフォーラム草の根支援」が会議を終えて、この写真に気付き、被災地になかなか行けない者として大勢で話し合っていました。

＊「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

FMやまと
77.7MHZ

朝ラジ☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』

第1.3.5(火)生放送 9:00 ⇒10：00

第158回 6/5(火)
～子どもたちの幸せを願って～
＜チーム ピース チャレンジャー＞

市民活動推進補助金を活用して、児童労働の子どもたちの実態を描いた映画に、字幕スーパーを入れて上映会を開催することができました。現在、働く子どもは世界で21,500万人。その半分がインドの子どもたち。その子どもたちを支援している様子が語られました。上映会の後の交流会で、いろいろな感想を聞くことができ、「自分に何ができるのか、考えたい。」という若者の存在を知り、自分たちの活動への想いを新たにするいい機会になったと、熱く語りました。

第159回 6/19(火)
～机と椅子の保健室を目指して～
＜NPO法人 なんでもプラス地域ネット＞

自治会では届かないところを補って、なんでもプラスになるように活動をしています。市民活動推進補助金を活用して『公所の酒まんじゅう作り』のDVDを作成して、食文化の伝承に努めています。お困りごとを支援する人材ネットワーク事業は有償のボランティア活動です。いつでも集える「たまり場」や学校の机と椅子のパイプ以外の木製部分を作り直して使えるようにする事業をすすめていきたいと、抱負が語られました。「机と椅子の保健室ですね」と言った、ジョニーさんの言葉が印象に残りました。

第160回 7/3(火)
～入学前に文化・生活習慣を学ぶ～
＜NPO法人日本ペルー共生協会＞

外国籍の子どもたちが日本の学校にスムーズに入学するための「プレスクール」開催を協働事業ですすめていきます。日本語だけでなく、アイデンティティを守りつつ、日本の文化・生活習慣も教え、学校生活が楽しくなるよう指導していけば、日本の子どもたちにとっても、多文化環境での教育になると思っています。
放送終了後に「スペイン語での『マイウェイ』は誰の曲ですか？」とFMやまとに問い合わせの電話が入り、「聴いてくれていたんですね」と感激の場面が出現しました。

＜これからの出演団体＞。

7月17日(火)第161回
＜NPO法人旅めぐり証明発行基金会＞
つる舞の里歴史資料館での特別企画展の開催や、月見野遺跡群などの広報周知活動をすすめています。

7月31日(火)第162回
＜大和クッキングスクール＞
協働事業で、外国籍市民の親子などを対象に、大和の食材を使用した料理教室を開催します。

★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆み

中学生行事のひとつ“となり町”まで大竹を1本づつ競って取りに行きました。きっと車や通行人は、通り過ぎるのを砂ぼこりの中、ジッと待っていてくれたのでしょう♪ (望月則男)

市内「カットスタジオみどり」店では来店のお客さんに短冊に願いごとを書いてもらい、笹飾りに短冊を飾る。みんなの「願いごとを読みあっては「そうだねえ」、「ほんと」と、うなずきあう。(小杉皓男)

家の門柱近くの竹に、「みんな元気で」などの願い事を書いた短冊をぶら下げ、甚平を着た息子たちに団扇を持たせて撮った写真が暑中見舞いに。30年前の懐かしい思い出。(石川美恵子)

天の川に隔てられた牽牛と織女。天の川は見たことがなく、そもそもなぜ2人は隔てられたのだっけ？ もはや何も覚えていないこの頃です。(中山みゆき)

熱血編集後記

テーマ:あなたにとって「七夕(たなばた)」とは？

今度会うのは1年後だね。こんな会話で別れた。別れてすぐに1年後が待ち遠しくなった。この年になって織姫と彦星の気持ちになった。(関根孝子)

今年は七夕ライトダウンキャンペーンが10周年。震災や原発、電気料金の値上げ、考え考え7月7日夜、電気を消そう。(村山真弓)

義父が3年前入院していた病院の看護婦さんから短冊を渡され、一日も早い回復を願って書いた「七夕の日」。叶わなかった願いをこれから何回思い出すのだろう。(櫻井貞代)

子どもの頃、育った寒村では、夜空に大きな天の川が横たわり水辺ではホタルが飛び交っていた。縁台に座り線香花火をよくやった。
ブ～ン、あっ、やだ。ピシャ！ (弘中健一)

なぜ「七夕＝たなばた」と読むのか。水神信仰に「神に捧げる布を織る棚機津女＝たなばたつめ」が登場するのがある。中国からの織姫彦星伝説とこの習俗が合体。子どもの頃、分からなかったが楽しめた。(浅見正明)

「あの手 この手」第60号 発行日・2012年7月3日 発行・大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター ＜開館・月～土 9:00～18:00＞
〒242-0021 大和市中央 1－5－1
TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
2012年7月号(第60号)をお届けします。

先月6月の大和市議会第2回定例会の一般質問の日、久しぶりに傍聴席に座る機会がありました。議場でこんなやりとりがありました。

ある議員が「40年近く小学校の教育現場におられた教育長は、最近の子どもたちの身体と心の変化をどのように見ておられるか」と質問し、大和市教育委員会教育長＝滝澤 正さんは以下のように答弁されています。

「私の経験も交えてですが、一般的に言えることは子どもたちの日常の生活スタイルに様変わりがある。運動の機会や体力が総じて低下しているように思う。ちょっとしたことで大きな怪我になったり、なにか危険予知能力、危険を回避する能力が低くなってきているという印象を持っている」と。

滝澤教育長は私の子どもの出身校でもある大和市立中央林間小学校の校長先生を歴任されていますが、大和市教育長就任の挨拶文のなかで、「地域社会は、子どもたちが健やかに成長する場として大きな役割を担っています。子どもたちは、地域の人々との係り合いを通して多くのことを学びます。この学びを確かなものにするためにも学校、家庭、地域社会が本来の役割をしっかりと担い、さらにお互いが緊密な連携を図ることが大切であると考えています」と述べられています。

大和市の子どもに責任を持つ立場にある教育長が、子どもの現状の観察、分析、そしてその課題を解決していくキイワードに「地域社会が本来の役割を担う」ことを据えておられる。

さて、この「地域社会の本来の役割」とはなんでしょう。

文科省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(2010年)によると6～11歳の子どもがテレビやゲーム機など、家で座ったり、寝転がったりして過ごす時間は平日で一日平均5～6時間もあると報告。この数字から、小学生の子どもは決定的に運動不足であることが読みとれます。

子どもたちの健やかな成長を保障するために、地域社会にできることは何か。本来の役割を果たすべく、為すべきことがあるように思います。

この子どもたちを外に引っ張り出すこと、そして思いきり外あそびができる「装置」を持っていることが今一番必要とされる「地域社会の役割」なのだと、私は思えてならないのです。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係　2012/07/01

イラスト・望月則男